

令和5年度 西小学校 読解力 育成プラン Go WEST

PISA読解力

日常生活に応用する問題解決的な総合言語力

- **自らの目標を達成し**、自らの知識と可能性を発達させ、**社会に参加するために**テキストを理解し、利用し、評価し、熟考し、これに取り組むこと

- ①情報を探し出す ②理解する ③評価し、熟考する

授業における具体的な手立て

「Society5.0」の到来

「膨大な情報の中から適切なものを見つけ出し、それを編集できる力」を身に付ける

西小読解力

あらゆる教科に通じる総合的な学力・生きる上で必要な力

- 身の周りのさまざまな情報を読み取り（認識）、自分の頭で考えて（思考）、言葉で伝える（表現）力→**知識を自分の言葉で運用する**

- ①文章・図・グラフからの情報を理解して発信する力
- ②相手の言葉・表情・しぐさから思いや考えを察して 伝える力
- 何のために（**目的意識**） ●誰に対して（**相手意識**）
- 学びに向かう力・人間性（**学習者自身の意識**）

認識 INPUT

- 教員が意図的に主語や述語、修飾語と被修飾語の関係を正確にとらえさせる **係り受け解析**

- 主語や目的語が省略されている文章は教員が主語や目的語を補完して記述させる
- 「それ」「これ」等の指示語が示す言葉や内容には線を引くなどして文章を読み取らせる **照応解決**

読解力育成のポイント

思考 THINK

- 図や表、グラフから読み取ったことを言葉や文章で説明させたり表現させたりする
- 文章から読み取ったことを絵や図、表などを用いて整理させる **イメージ同定**

- 自分と他者の考えの共通・相違点を考えさせる
- 複数の意見や考え方が同じかどうかグループで話し合わせる **同義文判定**

表現 OUTPUT

- 「～だから…に対応します」のように根拠をもとに説明させる
- 「～だから、～です」と既習事項等を関係づけて考察させる **推論**

- 新しく学んだ言葉を使って文章を書かせる
- 定義や学習用語がでたら「～とは、…である」と意味を言葉で確認させる **具体例同定**

- ①授業において教員の発する言葉や提示した文章が、教員の意図したとおりに児童に伝わるようにする
- めあての表記「都道府県リーフレットをつくろう」（4年国語）→「自分の考えと理由を区別して 都道府県の良さを伝え、友達が行きたくなる」
- 相手意識・目的意識を明確にすることで、具体的な工夫のイメージを児童にもたせる

- ②読解力の基礎となる 語彙力を発達段階に即して児童に身に付ける
- 意味が分からない言葉は 辞書を使って調べる
- 言葉の辞書的な意味を覚えるのではなく「言い換え力」を鍛える
- あいまいな表現「たくさん」「すごく」等ではなく、具体的な表現で説明する
- 国語以外でも教科書や課題・問題文などを音読する
- 文と文の順序や接続を表す言葉（「まず」「次に」「または」等）を正しく使う
- ③「読む」「書く」「聞く」「伝える」を通して読解力を高める

●教科書「を」教える から 教科書「で」学ばせる 授業を ●「先生が」読む から「児童が」読む 授業を